

18  
Adult  
Only



KANONIZUMU・XIII



このまま去るもよし  
丸腰で抗うもよし…

…その場合の無事は  
保証できないけど

我



邪魔…かな

佐祐理…



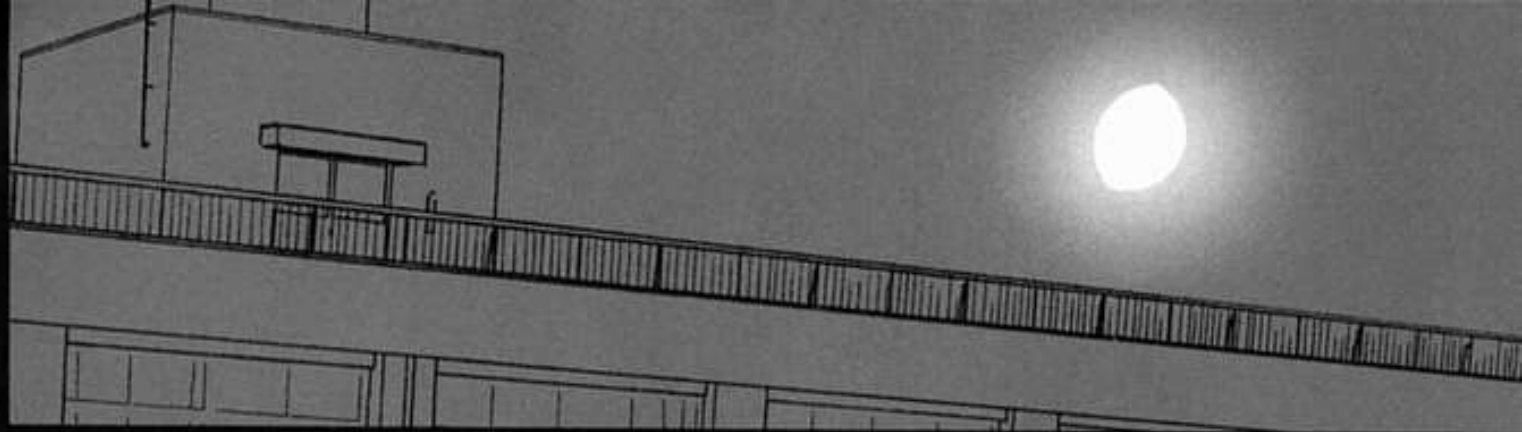
…私のせいなの

月が作った ウサギが一羽

…私のそばにいるから

傷ついてゆへ……

ウサギが作った まやかしひとし



追いつ、追われつ、 歯車ふたつ



狂い始めた 歯車 ひとつ




……  
おそかったね

月が ウサギを 狂わせた



舞

誰が、月を、沈ませた？



おたん生日

おめでとう

"Monopolize"

佐祐理のこと…

好きですか？

ああ

好きだよ  
佐祐理さん

佐祐理のことだけ…  
考えてくださいますか？



祐一さん



当たり前だろ

俺の頭の中は

佐祐理さんの  
ことで  
いっぱいだよ



…うれしい…



ん…







はあはあ

佐祐理以外の  
ことなんて…

忘れてください…

舞のこと、忘れてください。

もじもじ

もじ…もじ…

はあはあ

佐祐理を汚してください

舞のこと、汚さないでください。



勝ち目なんて  
なかったのに



…舞…  
…?



だってこっちは

佐祐理しかお姫さまになれない





あれが現実——

クッ……クッ……クッ……

あ……





…気持ちいいのか？

わ…から

な…っ

先…固いぞ

感じている  
のか…？

ニ  
ミ  
ヤ

いいんだな？

ぬちゅっ



…あ…

………



力…  
抜いてろ  
舞…

ひう…



ああ...!!

ああ...

ああ...



.....い.....お.....





おねがい…

もう…  
やめて…




そんなもの…  
見せないでええ!

…祐一に勝ち目なんて

なかったのよ


見たくない…っ！




あんたも  
知っていたくせに



舞はもう



祐一のもの



ここから…

出して…

おね…がい



ずっとずっと...

一緒にいられると  
思っていたのに...

...ずっと...



——  
あんたが

ニセモノだから











いつも気だるそうで

何も見ていなくて  
何にも  
関心を示さなかった

そして  
不思議な子

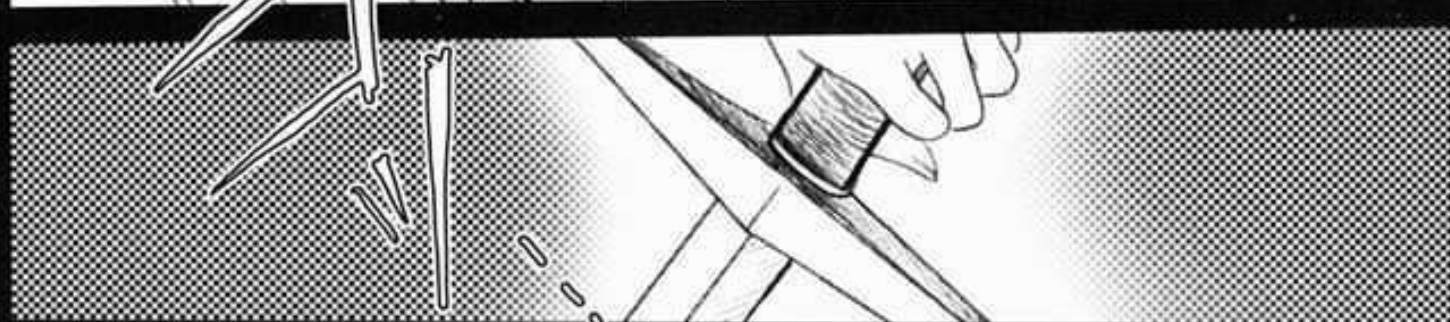


佐祐理のことにも

それでも  
よかった

舞は…誰のことも

見なかったから





なんて…凍とした…





...佐祐理?

あ...ははっ こんばんは

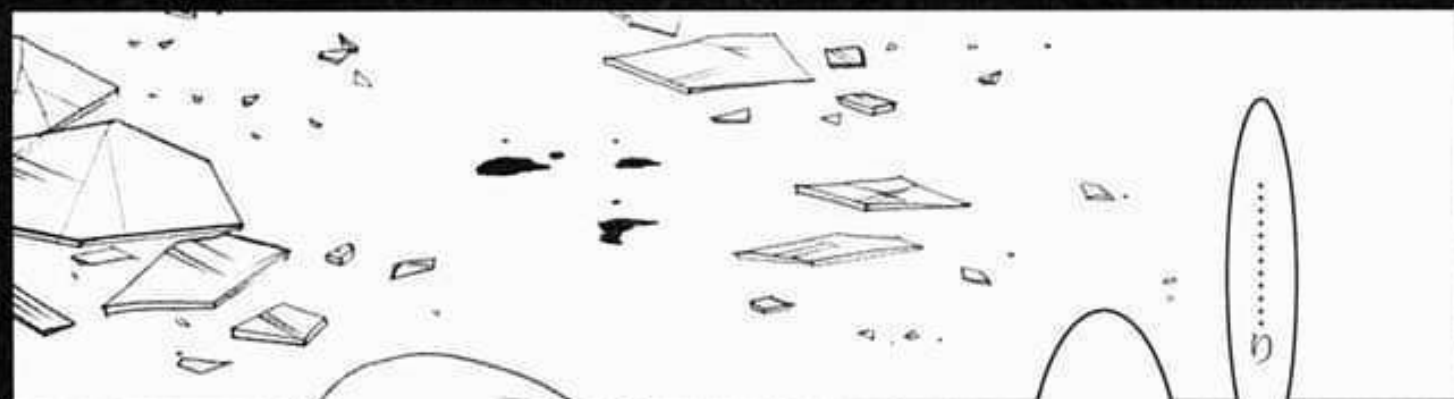
...あ...



...だめ!

逃げて——

何が起きたのか



……り

佐祐理！

佐祐理！



なぜ舞が  
謝っているのか

その小さな新しい傷が  
古くて深い傷跡と



同じ場所なのは——





—  
舞が

佐祐理を見ていた

—  
私の…せいだ……

偶然か…必然か…







川澄舞さん  
あなたの行動には  
問題があります

わが学園の人間としては…

ヒッ

ヒッヒッ


ヒッヒッ



ガラスが割れたのは  
川澄さんのせいでは  
ありません

…あの



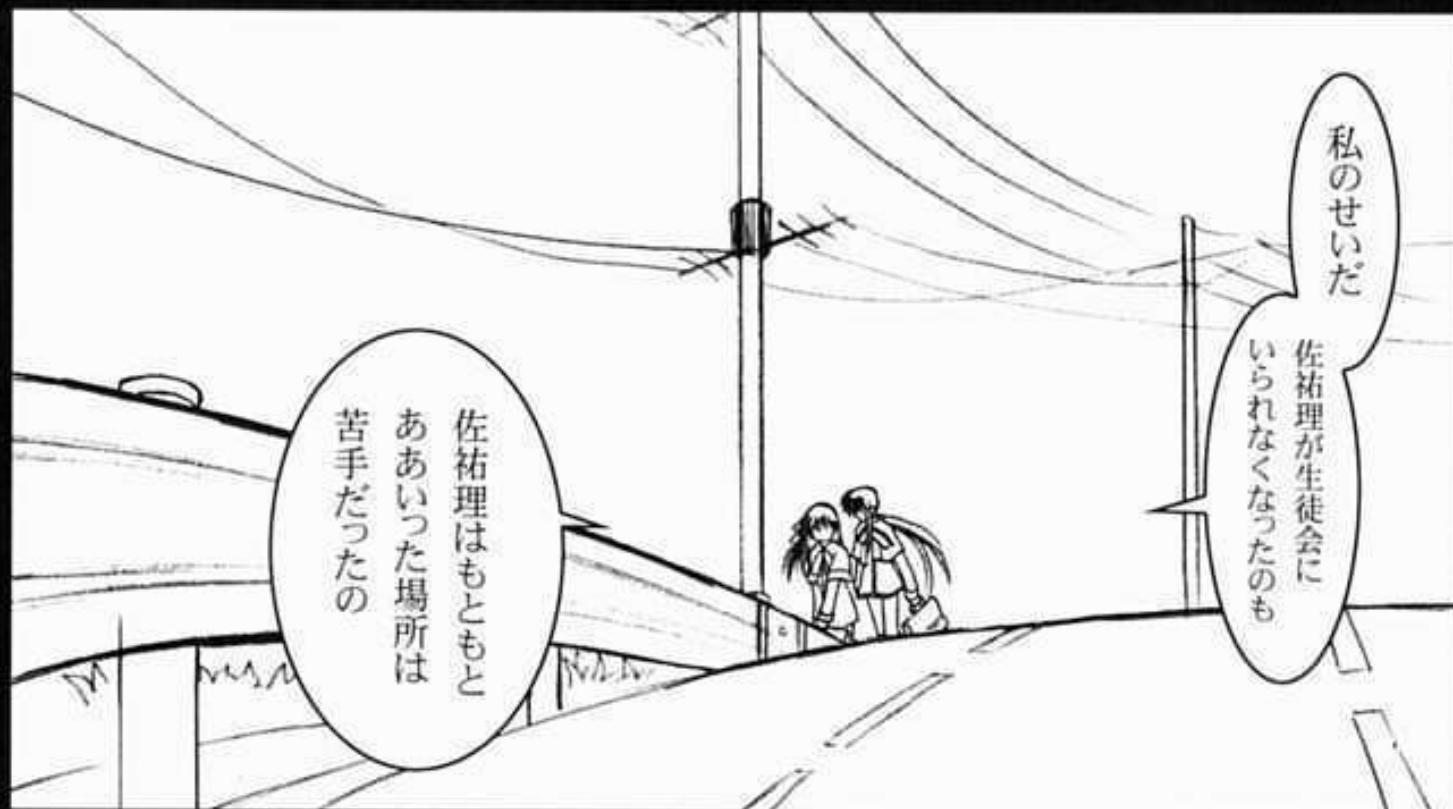


舞と佐祐理の  
友情…ですか？

この場合いつまでかは  
問題かもしれないね

未来永劫…

この命が尽きても




機能が不自由になるほどの深い傷跡




沈黙によって過去を隠した浅い傷跡




…嘘と暗黙は同じだとわかっていたのに。



本当のことを  
言わないまま  
舞のそばにいた…



それが  
あなたの  
負い目



その気持ちがある限り…

あなたはずっと  
真実になれない

偽りの佐祐理との関係より、真実の祐一さんが舞の心を抱けたのは当然だと…



作り物の魔物あたしとの追いかけてをやめて、本物の祐一にふり返るのは当たり前だと…

……………え？

それでも…舞にとっては  
本物だったのに



…舞があたしを  
追いかけてないのなら…



代わりにあなたをここに  
閉じこめたのに

舞は

ムキになって  
取り戻しに来た



祐一だけじゃ

足りないん  
だって

あたしと同じ  
ニセモノなのに

佐祐理は必要なんだって

なんて…欲張り…



ハハ

— ああ…もう

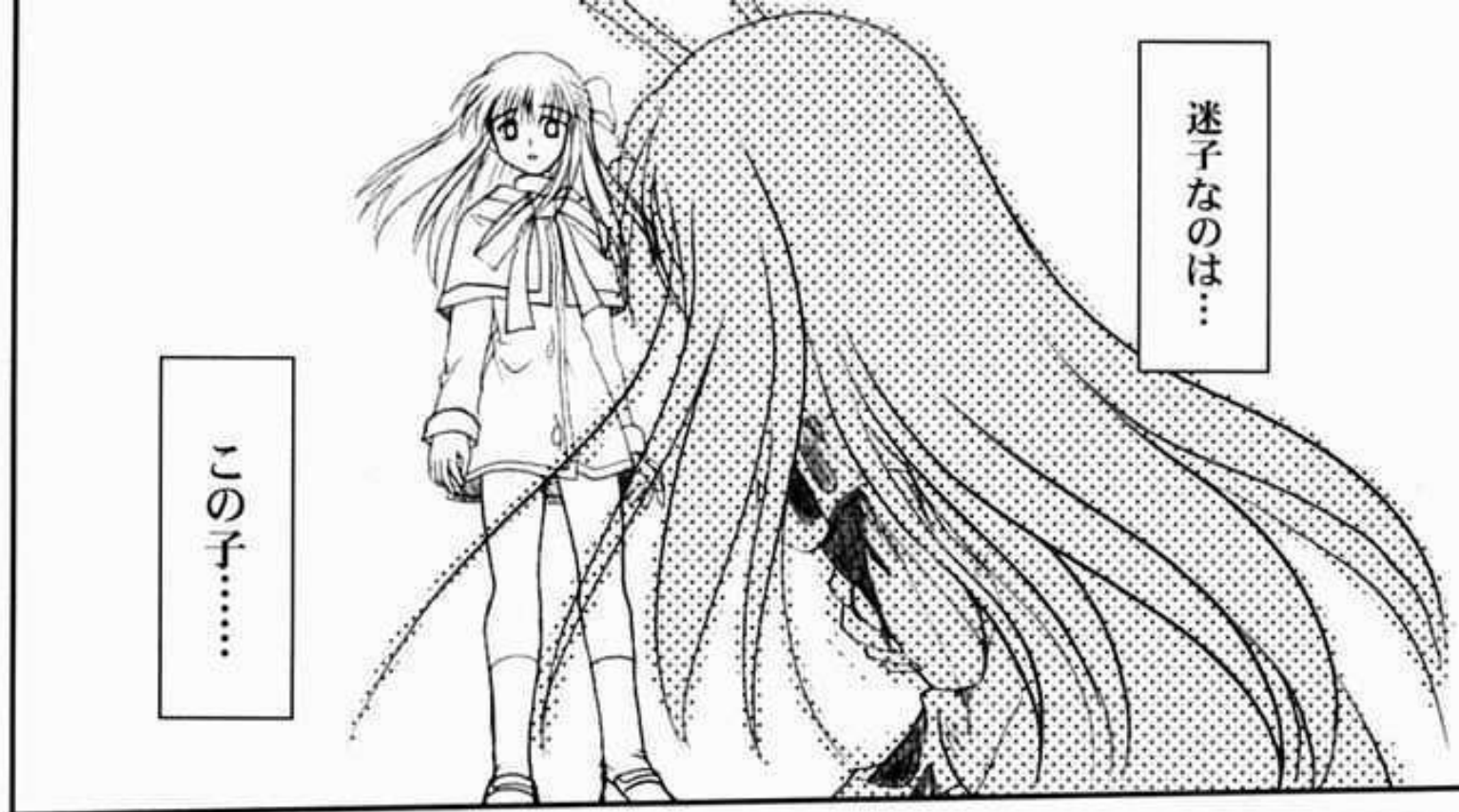
時間…ないや……

— あ…

ああ…

どうして今まで  
気付かなかったのか





迷子なのは…

……キョ……



そっちは…



カゴツ







なんで…舞は

誰かのものに  
なっちゃうのかなあ…



あたしを作ったのは舞なのに…

あたしのことだけを  
見ていたのに…!!



何年も…

何年もずっと

……舞は…

——ニセモノだから。

あたしは魔物だから



あたしを追いかけることだけが  
舞の生きる理由だったのに……

時間には約束があるのを知っていたから。

あたしがいなくても……もう  
舞は生きていけるから……

祐一や……

あんたが……いるから……

魔法が解けて消えてしまう前に、



舞が…あたしのものじゃなくなったから…

あたしは…もう…存在できない…

迷い込んだ、真実になれない、壁のある部屋。



舞が

あたし以上の…

生きる理由を見つけたから…



舞のことが好きで…好きで……



幸せにしてあげたくて…





消えることと  
忘れられることは違う

忘れられないと  
いうことは  
消えないということ

自分が幸せになりたくて…



あなたのこと…

小さな舞のこと

自分のことだけ見て欲しくて…



佐祐理は…決して  
忘れません……

佐祐理の中に…  
居てください…

独占したくて…



…スシヤカ…

佐祐理が…

佐祐理である限り



それが



わたしの壁

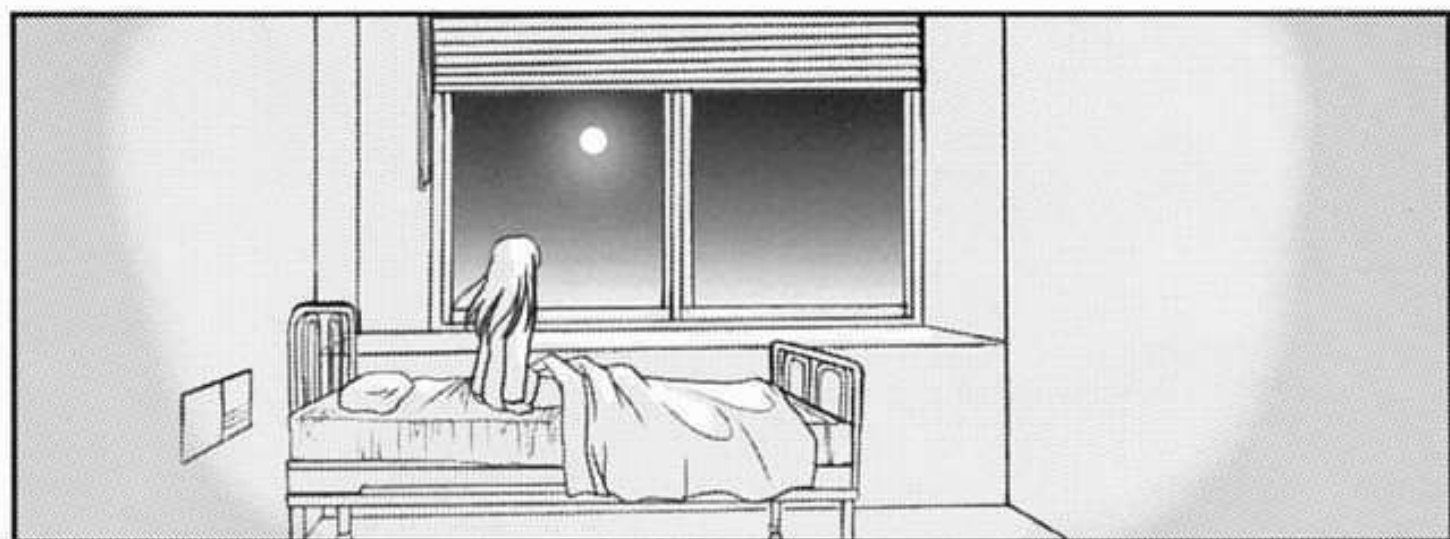


——  
弥？

…もうわかってるんでしょう？

ここから出られないんじゃないかと

出たくなかったんだってことを…





あ…舞…

佐祐理!

来てくれたん…



目覚めて…

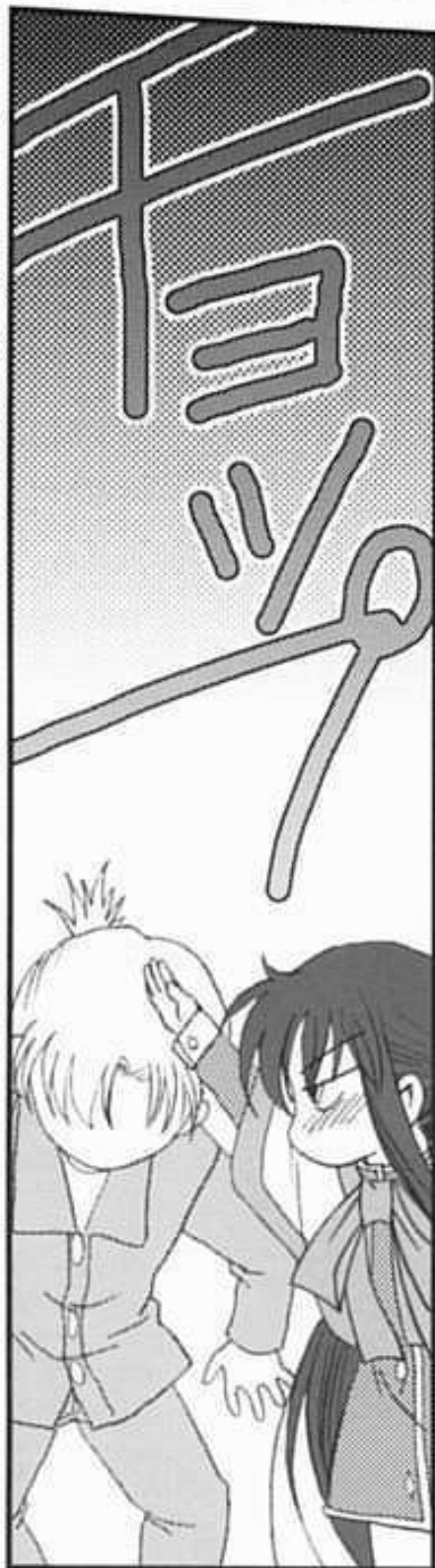
良かった…





そのとうしとは…

祐一さんに  
言っただけなくちゃ



……



一度だって  
言っただけなこと  
ないんでしょう？

そのとおり！

いいよなあ  
佐祐理さんは



佐祐理は舞に

話さなくちゃ  
いけないことが  
あるの

左  
↓

…あのね……



な・ん・で俺に  
チヨツプするのかな?

佐祐理は  
病み上がり

照れてるんだろ?

あははーっ



116

古い傷跡のこと……

真実を

佐祐理が

佐祐理であるために

第五十五回卒業式





舞と佐祐理が  
借りたアパートです

いつでも…来て下さい

祐一さんの部屋も  
ありますから…



…ああ



…白状しますね

佐祐理は

祐一さんに  
嫉妬していました



...え?

—



わかってます

舞に聞けばきつと  
こう言うでしょう

「祐一は祐一...  
佐祐理は佐祐理だ」って...



舞は...

そういう子ですから...



…自分に

だから…  
もう  
負けませんから

誰が 月を 沈ませた



わたし——  
おいて行かれませんか！

朝が 月を 眠らせた